

登録コード	UAF65500	開講年度	2026				
授業題目	特別支援教育特論			担当教員	下山 真衣 他		
				副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3 時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」			【授業の達成目標】			
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。			特別支援教育に関する知識と発達障害のある子どもへの心理支援について応用行動分析学に基づいた知識と技能を身につける。			
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。			特別支援教育に関する知識と発達障害のある子どもへの心理支援について応用行動分析学に基づいたアセスメントと支援技法について学び、実際の相談支援に対応する能力を身につける。			
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。			特別支援教育に関する知識と発達障害のある子どもへの心理支援について応用行動分析学に基づいたアセスメントと支援技法について学び、実際の相談支援に対応する能力を身につける。			
(2)授業の概要	実践的な課題や今日的な課題についてテーマを決め、そのテーマに該当する実践について発表し、それをもとに講義・演習を行う。特に発達障害のある子どもへの応用行動分析学を用いた事例について議論を行い、応用的な実践的スキルの知識を身につける。						
(3)授業計画	第 1 回：特別支援教育とは 第 2 回：障害とは 第 3 回：特別な教育ニーズと課題 第 4 回：発達障害のある子どもの教育と支援に関する実践的課題 第 5 回：発達障害のある子どものアセスメントの実際 第 6 回：発達障害のある子どもの行動の機能的アセスメント 第 7 回：発達障害のある子どもや家族、教職への相談支援 第 8 回：個別の支援計画立案のための技法 先行事象に着目した支援 第 9 回：個別の支援計画立案のための技法 結果事象に着目した支援 第10回：自立活動とその計画立案 第11回：個別指導計画と個別教育支援計画 第12回：障害のある子ども支援に関する校内支援体制 第13回：障害のある子ども支援に関するコンサルテーション 第14回：事例検討と授業アンケート 課題レポート						
(4)成績評価の方法	課題レポート（40％）と演習による研究発表（30％）に関わる討論(30％）によって、専門的で新しい知識を説明し、実践的課題に対する支援立案や校内コンサルテーションについて課題検討の深化と学校教育の現場への教育と支援の応用の提案ができていくかについて評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可						
(5)成績評価の基準	専門的な学識・技能、子どもの多様なニーズへの応用力、柔軟な発想力に関して評価する。 『合格水準にある』 に関する説明、 の検討、 に関する発表ができる。 『やや上にある』 に関する説明、 の検討、 に関して、レポートの作成、発表ができる。 『かなり上にある』 に関する説明、 の検討、 に関して、根拠に基づきレポートの作成、発表ができる。 『卓越している』 に関する説明、 の検討、 に関して、根拠に基づいた具体的なレポートを作成し、発展的な展望を示せる。						
(6)事前事後学習の内容	・授業時間以外に情報収集、課題の検討、発表資料の作成をし、授業で担当教員とさらなる検討が可能となるよう準備を絶えず続けること。 ・授業の終わりに次回授業の予告とともに事後学習の復讐の範囲と事前学習範囲を指示するので、その範囲について、専門用語の定義の確認を行い、先行研究の収集と熟読をすること。そのため、予習と復習には毎回 1 時間以上の時間を自主学習に当てる必要が出てくる。						
(7)履修上の注意	相談等がある場合はメールで対応する。研究室訪問は常時受け付けるが、なるべく事前に訪問日時を相談すること。授業は基本的にディスカッションが中心となる。						
(8)質問,相談への対応	質問や相談は研究室の対面、もしくはオンライン、メールで受け付ける。 メールアドレス: mshimoyama@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	ミルテンバーガー（2006）『行動変容法入門』二瓶社 ISBN 978-4861080258						
【参考書】	授業中に適宜紹介する。						